

令和4年度  
弘前大学大学院  
地域共創科学研究科

Graduate School of Sustainable Community Studies 2022

地域リノベーション専攻

産業創成科学専攻



HIROSAKI  
UNIVERSITY

2023年度 入試日程(予定)	
<b>〈第1期募集〉</b> ●出願期間 2022年7月11日(月)~7月15日(金) ●試験実施日 2022年8月22日(月) ●合格発表日 2022年9月1日(木)	<b>〈第2期募集〉</b> ●出願期間 2022年12月5日(月)~12月9日(金) ●試験実施日 2023年2月5日(日) ●合格発表日 2023年2月9日(木)

2023年度 募集人員		
専攻	研究領域	募集人員
地域リノベーション専攻	コミュニティデザイン	15名 (研究領域毎に半数程度)
	レジリエンステクノロジー	
産業創成科学専攻	食産業イノベーション	15名 (研究領域毎に半数程度)
	グローバルビジネス	

学 費	
●入学金 282,000円	●授業料(年間) 535,800円
2022年度入学者実績	

奨学制度
研究・勉学への意欲がありながら、経済的な理由によって本学大学院での修学が困難な院生や、優秀な学業成績・研究成果を持つ院生に学費等を支援するために、以下の奨学制度があります。
●日本学生支援機構奨学金(貸与型) 奨学金の貸与月額は次のとおりです。 [第一種(無利子)] 月額50,000円または88,000円 [第二種(有利子)] 月額50,000円, 80,000円, 100,000円, 130,000円, 150,000円から選択
●岩谷元彰弘前大学育英基金(奨学金給付事業) 成績優秀でかつ経済的理由により修学が困難な学生に対して、一人20万円の奨学金を給付
上記支援の詳細及び入学金・授業料免除については下記担当にお問い合わせください。 学務部学生課生活支援グループ経済支援担当 TEL.0172-39-3117



JR弘前駅からのアクセス ※道路状況により所要時間が変わりますのでご注意ください。  
 (1) 徒歩: 約20分  
 (2) バス: 約15分(駅前3番のりば乗車、弘前大学前下車)  
 (3) タクシー: 約5分



〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地  
 TEL.0172-36-2111(代表)

人文・地域研究科教務グループ TEL.0172-39-3960  
 メールアドレス jm3960@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学ホームページ  
<https://www.hirosaki-u.ac.jp/>



弘前大学入試課ホームページ  
<https://nyushi.hirosaki-u.ac.jp/>



# HIROSAKI UNIVERSITY

## 研究科長メッセージ



弘前大学大学院  
地域共創科学研究科長  
片岡 俊一

日本の地域社会は人口減少、少子高齢化、若者の域外流出、労働力不足など多くの社会問題に直面しています。地域社会をいかに力強く持続させていくかが大きな課題となっています。

地域共創科学研究科は、このような地域の課題に取り組むべく、令和2年4月に誕生したまだ新しい大学院です。取り組む観点として「地域を守る」、「地域から攻める」を挙げました。地域リノベーション専攻は、地域を守るうえで重要な社会学と工学を軸に、産業創成科学専攻は、地域から攻めるうえで重要な経営学と農学を軸に、高度な専門性と俯瞰性を兼ね備えた人材を育成します。

私たちは「共創」という言葉に、ふたつの意味を込めました。ひとつは文理共創です。地域共創科学研究科では、文系と理系の大学院生が、それぞれの専門性を意識しながら、協力して課題に取り組み、新しい価値の創造を目指します。これは、ひとりの人間のなかに文系と理系の素養を融合させようとする文理融合とは異なる考え方です。私たちは、さまざまな分野の専門家が、刺激し合い協力しあうことを重視しました。なぜならば、複合的な地域の課題は、ひとりの超人によって解決できるものではなく、さまざまな専門分野の力を結集し、多角的に取り組むことによってしか解決できないからです。

ふたつ目は域学共創です。大学院生や大学教員が地域の専門家等と共に、地域の現場が抱える課題を理解し、互いの専門知や実践知を尊重しながら新たな価値の創造を目指します。地域には多様な人々が暮らしており、地域課題を解決するには、多くのステークホルダーの意見を取り入れたり、対話を重ねたりする必要があります。また行政関係者や企業家、地域のNPOや専門家との協働も欠かせません。

皆さんが、地域共創科学研究科で専門性と俯瞰性を鍛え、異分野の専門家や地域の実践者と共創すれば、地域社会の未来は必ず拓かれると確信しています。

皆さんが、地域共創科学研究科で専門性と俯瞰性を鍛え、異分野の専門家や地域の実践者と共創すれば、地域社会の未来は必ず拓かれると確信しています。

### INDEX

研究科長メッセージ	1
理念・専攻・3つのポリシー	2
地域リノベーション専攻	4
産業創成科学専攻	6
研究環境・社会人支援制度	8
新入生の声	9
在学生の声	10
研究紹介	12

# 地域共創科学研究科

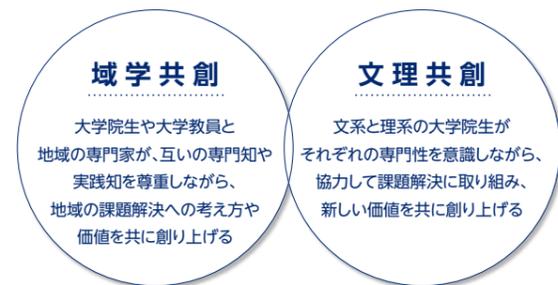
Graduate School of Sustainable Community Studies

人口減少が進む日本の地方では、コミュニティの維持や産業の発展が困難な状況にあります。地域共創科学研究科は、この現状を打破するために、大学の専門的な知識と地域社会が持つ実践的な知識を交差させ、新しい価値を共に創造することを「地域共創」と位置づけ、地域共創を科学する研究科を目指します。

## 理念

### 地域共創科学研究科における“共創”

それぞれに研究分野を持つ学生が、互いの専門性を尊重し合い、新たな価値を創出すること。



## 専攻

### 地域リノベーション専攻

社会学と工学を中心に、地域づくり・防災・自然エネルギーの活用などの専門性を高めつつ、地域の専門家とともに「地域を守る」方法を構想します。

### 産業創成科学専攻

農学と経営学を中心に、農水産物の高付加価値化や商品流通などの専門性を高めつつ、地域の専門家とともに「地域から攻める」方法を構想します。

## 3つのポリシー

### 地域共創科学研究科

#### アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

##### 1. 教育理念・目標

本研究科では、社会科学・工学・農学等の学士課程における修学をさらに高度化し、専門性と研究領域の垣根を越えた俯瞰性を兼ね備えた高い能力を有する“地域社会の未来を切り拓くフロントランナー”を育成する。

##### 2. 求める学生像

学士課程等で修得してきた分野の基礎的な知識のほか、地域の特性や課題を理解しながら、異分野にも興味関心を持ち、課題解決等に向け実践的に取り組む意欲と行動力のある者。

#### カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

##### 1. 域学共創に必要な基礎スキルの修得

**スキル科目** 共創の基盤となる、エビデンスに基づいた地域社会の把握や、知的財産を活用した価値創出を学修する。

##### 2. 専門性と俯瞰性を修得

**専攻科目** 共創の基盤となる専門性と俯瞰性を身に付けるため、異分野にまたがる専攻科目を設定。

##### 3. 域学共創・文理共創に資する能力の修得

**地域共創科目** 異分野の専門家からなるチームが協働することの重要性を理解し、協働による地域社会の機能維持や産業発展に資する計画を立案し、実行することで新たな価値を創造(共創)する力を身に付ける。

#### ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

■地域社会の未来について、専門的・俯瞰的知識を用いて、より良い在り方を構想できる力の修得

■地域の課題解決のために、さまざまな分野の構成員からなるチームを自ら組織し、フロントランナーとして先頭立って運営できる力の修得

■地域社会の機能を持続的に維持したり、地域社会の礎となる産業を発展させたりする計画を立案し、粘り強く実施することで新たな価値を創造(共創)できる力の修得

## 地域リノベーション専攻

#### アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

- 地域の特性や潜在的な資源等を深く理解し、地域を支える機能の維持や再生に必要な(社会学または工学などの)基礎的な知識を身につけている人
- 自らの専門に留まらず、異分野にも興味関心を持ち、異分野の専門家と一緒に地域の未来を構想し、その実現にむけて実践的に取り組む意欲と行動力のある人
- 地域社会の機能を維持し再生するために、地域の専門家や多様なステークホルダーと協働しながら、組織的に課題を解決する意欲のある人

#### カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

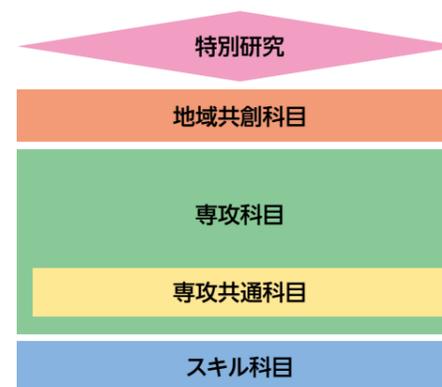
- 地域の特性や潜在する資源を活用し、地域社会の機能を維持し再生する方策を構想できる力を育成するために、専攻科目として社会学や工学などの異分野にまたがる授業科目群を置きます。
- 異なる分野の研究者や地域の専門家と共創することの重要性を理解し、自らの専門性を位置づけることができるように、専攻共通科目として「地域リノベーション特論」を置きます。
- 地域を支える機能を維持し再生するために立案した政策や計画を多面的に評価できるように「政策・事業評価演習」を置きます。
- 持続可能な地域の未来を構想し、その実現に必要な政策や計画を論理的・体系的に考える能力を育成するために、修士論文の作成を目指した特別研究を置きます。

#### ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

- 社会学や工学などの専門的・俯瞰的知識を用いて地域の特性や潜在する資源を的確に把握し、持続可能な社会へと機能転換する方策を意欲的に構想できる力を身に付けていること。
- 持続可能な地域社会を共創によって実現するために、自らの専門と異なる分野の研究者や地域の専門家を含めた体制を構築し、フロントランナーとして先導的に運営できる力を身に付けていること。
- 多様なステークホルダーの意見などを総合しながら、地域に密着した政策や計画を立案することで新たな価値を創造(共創)できる力と、その効果を多面的に評価できる力を身に付けていること。

## カリキュラムの特徴

本研究科では、社会科学・工学・農学の科目を幅広く学びながら専門性と俯瞰性を高め、地域共創を先導する人材に必要な資質や能力を身に付けるため、「スキル科目」、「地域共創科目」、「専攻科目」、「特別研究」の4つの科目区分を設定しています。



#### 修了要件

科目区分	単位数	要件
◆スキル科目	2単位	必修2科目2単位
◇地域共創科目	4単位	必修2科目4単位
◇専攻科目	16単位	必修2科目(専攻共通科目)4単位、 選択必修12単位
◆特別研究	8単位	選択必修2科目8単位
計	30単位	

## 産業創成科学専攻

#### アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

- 地域の課題を深く理解し、課題を解決するために必要な(農水産学または経営学などの)基礎的な知識を身につけている人
- 自らの専門に留まらず、異分野にも興味関心を持ち、異分野の専門家と一緒に課題解決に向けて科学的に研究し、実践的に取り組む意欲と行動力のある人
- 地域産業の発展のために、域内だけで完結することなく、域外との連携も視野に入れた外向き志向で地域課題を解決する意欲のある人

#### カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

- 地域産業の課題を十分に理解し、その解決のために必要となる専門的な知識を修得させるために専攻科目として農水産学や経営学などの異分野にまたがる授業科目群を置きます。
- 地域の産業特性と課題に対して、自らの専門性を位置づけることができるように、専攻科目として「地域産業創成特論」を置きます。
- 農水産学や経営学など各々の専門性による付加価値、さらにはそれらの共創による付加価値を生み出すための構想力やマネジメント力を修得させるために「共創価値創出演習」を置きます。
- また、地域産業の課題を探究し、課題解決にむけたプランを科学的・論理的・体系的に考え、実践し得る能力を育成するために、修士論文の作成を目指した特別研究を置きます。

#### ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

- 農水産学や経営学などの専門的・俯瞰的知識を用いて、地域産業の特性や課題を的確に把握し、地域社会を維持・発展させるようなローカルにおける生業(なりわい)を構想する力を身に付けていること。
- その生業をローカルからグローバルに展開し、地域の価値を高め、地域経済を牽引する産業を構想できる力を身に付けていること。
- 各々の専門性を活かしつつ、異分野の専門家との共創によって地域の価値を高める新しい知を生み出すための共創価値を創出する力を身に付けていること。
- 科学的思考に基づいた研究力を基盤とし、地域資源を活用した商品を開発する力、マーケット志向による企画を提案する力、さまざまな分野の専門家による共創状態をフロントランナーとしてマネジメントする力を身に付けていること。

# 地域リノベーション専攻



## ■入学定員

15名

## ■研究領域・授与する学位

研究領域	学位
コミュニティデザイン	修士(地域共創社会学)
レジリエンステクノロジー	修士(地域共創工学)

## ■人材育成

### 『地域を守る』 高度専門職業人の養成

社会科学・工学等の学士課程における修学をさらに高度化し、専門性と俯瞰性を兼ね備え、異分野の専門家や地域の専門家と協働し、「地域を守る」という観点から、新たな価値を創造(共創)できる高い能力を有する“地域社会の未来を切り拓くフロントランナー”を育成します。

## ■想定している進路

- ・ 国の機関
- ・ 地方自治体(行政職・技術職)
- ・ その他NPO団体
- ・ コンサルタント業
- ・ シンクタンク
- ・ 地域貢献型企業
- ・ 地域密着型企業
- ・ 電気/ガス/熱供給/水道業
- ・ 建設業
- ・ 保険業
- ・ エネルギー関連業 など

## ■教育カリキュラム

### 地域共創科目・スキル科目

地域の課題を把握する基礎的な手法や、地域の知的財産を管理する手法を学ぶことができます。また、地域社会の課題を解決する先進的な事例研究の成果を踏まえながら、異なる専門分野の学生が協働しながら、創造力を発揮する実践的な学習を進めて、総合的に物事を考え、実行する力を身に付けます。

## ◎授業科目

### 〈地域共創科目〉

#### 必修科目

- ・ 地域共創特論
- ・ 地域共創演習

#### 選択科目

- ・ インターンシップA
- ・ インターンシップB

### 〈スキル科目〉

#### 必修科目

- ・ 地域データ解析特論
- ・ 知的財産管理特論

## 専攻科目

専門性を活かしながら、異なる研究分野と共創する特論や演習を履修し、自らの専門性を位置づけ、異分野の専門家と協働する素地を得ることができます。また、修士論文の作成を目指した特別研究を組み合わせることで、地域が必要とする高度専門職業人の能力を身に付けます。

## ◎授業科目

### 必修科目

- ・ 地域リノベーション特論
- ・ 政策・事業評価演習

### 選択必修科目

- ・ 地域調査演習
- ・ 地域研究特論
- ・ 生態人類学特論
- ・ グループ・ダイナミクス特論
- ・ 社会心理学演習
- ・ メディア社会学特論
- ・ 家族社会学特論
- ・ 都市社会学特論
- ・ 地域社会学演習
- ・ 応用社会学特論
- ・ 都市・農村計画特論
- ・ 社会教育特論
- ・ 人文地理学特論
- ・ 地域健康教育特論
- ・ 社会教育演習
- ・ コミュニティデザイン演習
- ・ 地形環境学特論
- ・ 防災地質学特論
- ・ 気候変動科学特論
- ・ 環境影響評価特論
- ・ 地理情報解析特論
- ・ バイオマス資源探査学特論
- ・ 生物多様性保全特論
- ・ 地盤震動工学特論
- ・ 防災構造工学特論
- ・ 循環型エネルギー工学特論
- ・ バイオマスエネルギー特論
- ・ エネルギー気象学特論
- ・ 風力エネルギー工学特論
- ・ レジリエンス科学特別演習

## 特別研究

地域共創科目やスキル科目、専攻科目を交えて体系的に修得した専門知と実践知を踏まえ、修士論文の作成を目指します。

## ◎授業科目

### 選択必修科目

- ・ コミュニティデザイン特別研究I
- ・ コミュニティデザイン特別研究II
- ・ レジリエンステクノロジー特別研究I
- ・ レジリエンステクノロジー特別研究II

## ■修了要件

地域共創科目から4単位以上、スキル科目から2単位、専攻科目から16単位以上修得し、特別研究8単位を含む合計30単位以上修得するとともに、学位論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とします。

## ■取得可能な資格

- ・ 専門社会調査士

## ■履修モデル

〈研究テーマ例〉自然エネルギーの導入による地域経営の自立化			〈学位〉修士(地域共創社会学)	
科目区分	1年次		2年次	
地域共創科目	インターンシップA	インターンシップB	地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論	知的財産管理特論		
専攻科目	地域リノベーション特論 政策・事業評価演習 地域調査演習 地域研究特論	循環型エネルギー工学特論 応用社会学特論 社会教育演習 コミュニティデザイン演習	農業経営学特論	
特別研究	コミュニティデザイン特別研究I		コミュニティデザイン特別研究II	

〈研究テーマ例〉産学連携を通じた地域防災の推進			〈学位〉修士(地域共創工学)	
科目区分	1年次		2年次	
地域共創科目	インターンシップA		地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論	知的財産管理特論		
専攻科目	地域リノベーション特論 政策・事業評価演習 グループ・ダイナミクス特論 防災地質学特論	地盤震動工学特論 防災構造工学特論	レジリエンス科学特別演習 産学連携学特論	
特別研究	レジリエンステクノロジー特別研究I		レジリエンステクノロジー特別研究II	

## ■教員紹介

研究領域	氏名	研究指導分野	氏名	研究指導分野
コミュニティデザイン	杉山 祐子	生態人類学, 地域研究	白石 壮一郎	地域研究, 社会学
	曾我 亨	生態人類学, 地域研究	李 秀真	社会学
	羽濑 一代	メディア文化論, 文化社会学	土井 良浩	地域計画学
	増山 篤	地理情報システム	平井 太郎	社会学
	戸塚 学	スポーツ・健康科学	古村 健太郎	心理学
	高瀬 雅弘	社会学	花田 真一	政策の定量評価
	日比野 愛子	社会心理学	深作 拓郎	教育学(社会教育学)
	近藤 史	地域研究, 環境社会学	松井 歩	人文地理学
レジリエンステクノロジー	小岩 直人	自然地理学	官 国清	バイオマスと材料化学
	長南 幸安	化学	本田 明弘	機械工学, 風工学
	片岡 俊一	地震工学	上原子 晶久	土木建築工学
	梅田 浩司	応用地質学	島田 照久	エネルギー気象学
	阿布里提	エネルギー工学	中村 剛之	動物分類学

教員紹介の詳細はこちらからご覧いただけます。

<https://scs.hirosaki-u.ac.jp/professor/>



# 産業創成科学専攻



## ■入学定員

15名

## ■研究領域・授与する学位

研究領域	学位
食産業イノベーション	修士(地域共創農学)
グローバルビジネス	修士(地域共創経営学)

## ■人材育成

### 『地域から攻める』 高度専門職業人の養成

社会科学・農学等の学士課程における修学をさらに高度化し、専門性と俯瞰性を兼ね備え、異分野の専門家や地域の専門家と協働し、「地域から攻める」という観点から、新たな価値を創造(共創)できる高い能力を有する“地域社会の未来を切り拓くフロントランナー”を育成します。

## ■想定している進路

- ・ 製造業(食品関係)
- ・ 複合サービス業(農協、観光関係等)
- ・ 国際流通小売業
- ・ 商社
- ・ コンサルタント業
- ・ ソーシャルビジネス
- ・ 起業 など

## ■教育カリキュラム

### 地域共創科目・スキル科目

地域の課題を把握する基礎的な手法や、地域の知的財産を管理する手法を学ぶことができます。また、地域社会の課題を解決する先進的な事例研究の成果を踏まえながら、異なる専門分野の学生が協働しながら、創造力を発揮する実践的な学習を進めて、総合的に物事を考え、実行する力を身に付けます。

## ○授業科目

### 〈地域共創科目〉

#### 必修科目

- ・ 地域共創特論
- ・ 地域共創演習

#### 選択科目

- ・ インターンシップA
- ・ インターンシップB

### 〈スキル科目〉

#### 必修科目

- ・ 地域データ解析特論
- ・ 知的財産管理特論

## 専攻科目

専門性を活かしながら、異なる研究分野と共創する特論や演習を履修し、自らの専門性を位置づけ、異分野の専門家と協働する素地を得ることができます。また、修士論文の作成を目指した特別研究を組み合わせることで、地域が必要とする高度専門職業人の能力を身に付けます。

## ○授業科目

### 必修科目

- ・ 地域産業創成特論
- ・ 共創価値創出演習

### 選択必修科目

- ・ 食品栄養科学特論
- ・ 食品工学特論
- ・ 食品機能生理学特論
- ・ 園芸植物機能学特論
- ・ 地域産物活性化特論
- ・ 水産資源管理学特論
- ・ 食品副産物資源の飼料利用特論
- ・ 植物遺伝資源栽培特論
- ・ 非破壊分析特論
- ・ 食料科学特論
- ・ 食サイエンス特別演習
- ・ ベンチャービジネス特論
- ・ コミュニティビジネス特論
- ・ グローバルビジネス特論
- ・ サービスマーケティング特論
- ・ プロダクトデザイン特論
- ・ 地域イノベーション特論
- ・ 経営情報分析特論
- ・ 中小企業特論
- ・ 農産物輸出ビジネス特論
- ・ 国際食品マーケティング特論
- ・ 食品循環流通学特論
- ・ 地域協同組合論
- ・ 国際フードビジネス特論
- ・ 国際農業開発特論
- ・ 農業経営学特論
- ・ 産学連携学特論
- ・ 会計応用分析特論

## 特別研究

地域共創科目やスキル科目、専攻科目を交えて体系的に修得した専門知と実践知を踏まえ、修士論文の作成を目指します。

## ○授業科目

### 選択必修科目

- ・ 食産業イノベーション特別研究I
- ・ 食産業イノベーション特別研究II
- ・ グローバルビジネス特別研究I
- ・ グローバルビジネス特別研究II

## ■修了要件

地域共創科目から4単位以上、スキル科目から2単位、専攻科目から16単位以上修得し、特別研究8単位を含む合計30単位以上修得するとともに、学位論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とします。

## ■取得可能な資格

- ・ 食の6次産業化プロデューサー LEVEL3 (国家戦略・プロフェッショナル検定)

## ■履修モデル

〈研究テーマ例〉 地域の特性にあわせた機能性食品の開発		〈学位〉 修士(地域共創農学)	
科目区分	1年次	2年次	
地域共創科目	インターンシップA	地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論	知的財産管理特論	
専攻科目	地域産業創成特論 共創価値創出演習 ベンチャービジネス特論 食品栄養科学特論	地域産物活性化特論 食料科学特論	食サイエンス特別演習 地域研究特論
特別研究	食産業イノベーション特別研究I	食産業イノベーション特別研究II	

〈研究テーマ例〉 加工食品の高付加価値を実現するビジネスモデル研究		〈学位〉 修士(地域共創経営学)	
科目区分	1年次	2年次	
地域共創科目	インターンシップA	地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論	知的財産管理特論	
専攻科目	地域産業創成特論 共創価値創出演習 ベンチャービジネス特論 農産物輸出ビジネス特論	グローバルビジネス特論 国際食品マーケティング特論 地域産物活性化特論 プロダクトデザイン特論	社会心理学演習
特別研究	グローバルビジネス特別研究I	グローバルビジネス特別研究II	

## ■教員紹介

研究領域	氏名	研究指導分野	氏名	研究指導分野
食産業 イノベーション	安川 あけみ	農芸化学, 染色, 家政	津田 治敏	畜産学
	岩井 邦久	食品機能科学	前多 隼人	食品科学
	佐藤 之紀	食品物性機能制御学	福田 覚	水産科学
	中島 晶	食品安全生理学	島田 透	化学
	中井 雄治	農芸化学	房家 琛	畜産学
	勝川 健三	花卉園芸学	吉田 渉	水産学
	君塚 道史	食品工学	林田 大志	農学
	西塚 誠	農芸化学	山元 涼子	農芸化学
	樋口 智之	農芸化学		
グローバル ビジネス	大橋 忠宏	交通政策, 地域科学	高島 克史	経営戦略論, 起業論
	森 樹男	国際経営論	大倉 邦夫	企業社会論
	黄 孝春	農産物貿易	佐藤 光輝	プロダクトデザイン
	保田 宗良	マーケティング	成田 拓未	国際食品マーケティング論
	泉谷 真実	食品循環流通経済学	柳 京熙	農業経済学
	石塚 哉史	食料経済学	佐藤 孝宏	国際農業開発論
	佐々木 純一郎	地域ブランド論	吉仲 怜	農業経営学
	内山 大史	付加価値創造科学	高野 涼	農林社会学, 森林政策学

教員紹介の詳細はこちらからご覧いただけます。  
<https://scs.hirosaki-u.ac.jp/professor/>



## 研究環境

### 〈大学院生室など〉

大学院生が利用できる院生室として、グループワークやディスカッションなどでの活用を目的とした「コ・ワーキング(共創)」型1室と、授業の準備や論文執筆、学会資料の作成など静かな環境で自修できる「スタディ(自修)」型2室の、合計3室あります。また、実験室や演習室など研究に必要な環境が完全に整っています。



### 〈研究支援制度〉

大学院生の研究を支援するために、院生室にコピー機を設置しており、研究のために必要な文献の複写等で利用することができます。

### 〈相談員制度〉

大学院生の疑問や悩みに対応するために相談員制度があります。相談員は、相談者のプライバシーが保たれるよう、また、不利益が生じないように配慮しつつ、関係各所と連絡・協議して、問題解決にあたります。

授業科目、研究指導、成績評価に関する疑問・質問・苦情、メンタルヘルスやハラスメントに関する悩み、その他研究生生活全般に関する事柄について相談を受け付けています(相談者のあらゆる不安に応えられるよう、研究科だけでなく全学の相談窓口も設けています)。

また、専門の学生相談員・ハラスメント相談員を設け、授業や生活に関する相談のほか、セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどに関する苦情を受け付けています。

深刻・重大な問題が生じた場合も、本研究科または弘前大学が責任をもって対応します。

## 社会人支援制度

### 〈教育方法の特例制度〉

社会人学生への特例として、正規の授業時間帯以外の時間帯等に授業又は研究指導を受けることも可能です。希望者は、担当教員と事前に相談してください。

### 〈長期履修制度〉

2年分の授業料で最長4年間かけて研究に取り組むことができます

社会人の方の就学を容易にするとともに、経済的負担等の軽減を図るために長期履修制度を実施しています。この制度の適用対象者は、職業を有している者(自営業、臨時雇用、非常勤等を含む。)で、認定された方は、2年分の授業料で最長4年間かけて研究に取り組むことができます。



## 新入生の声

### コンクリートの専門性を高めて地域を元気に

#### 地域リノベーション専攻 レジリエンステクノロジー研究領域 新1年生

みかみ まき  
**三上 真希**さん 青森県立弘前高等学校 出身  
弘前大学 理工学部 地球環境防災学科 出身

学部時代から産業廃棄物の溶融スラグ(廃棄物等を高温で熱した後に固化させたもの)を使用したコンクリートの、諸々の状態について研究しています。一般廃棄物をコンクリートに混ぜて活用する事例は広がっていますが、産業廃棄物を材料とした活用はまだまだ盛んではありません。私はこの研究について、現代社会の問題解決に直結している点にやりがいを感じています。循環型社会が求められている近年において、ゴミを資源に変えることができれば、地域資源の再循環サイクルを作ることが可能です。

大学院でも3年次から始めた今の研究を続ける予定です。当初は研究内容で得た知識を活かせる土木関係の企業を志望して就職活動を行っていました。しかし業界について知れば知るほど、今の知識量で働いても貢献できる人材になれないのではないかと思い始め、より専門性の高い知識を身につける重要性を意識するようになっていました。学費の問題や、大学院に進むことで研究分野以外の業界への就職が厳しくなるのではないかなど、不安もありましたが、様々な可能性を考えた上で後悔はしたくないと思って大学院への進学を決意しました。当研究科では文系と理系の学生と一緒に学ぶという特性があるので、違う立場の意見を知って視野が広がるのではと、今から楽しみにしています。

現在、日本のインフラは老朽化という問題に直面しています。今後は新たに道路や建造物を造るのではなく、既にあるものの補修や修繕がインフラの長寿命化の鍵になります。土木業界、又は建設コンサルタント業界であれば、学んだことを最大限に活かせると思っています。できれば青森や東北の社会インフラの整備に携わり、東北のまちが行き来しやすいような環境を整えて、地域の活性化に貢献できればと考えています。



### 食品成分分析への熱い思いを社会で役立てる

#### 産業創成科学専攻 食産業イノベーション研究領域 新1年生

さとう ふみき  
**佐藤 史規**さん 宮城県立尚絅学院高等学校 出身  
弘前大学 農学生命科学部 食料資源科 出身

弘前大学へ入学した当初から研究職に就きたいと考えていたため、漠然と大学院への進学の可能性を考えていました。決め手となったのは興味深い研究に出会えたことです。私は学部時代、食品成分分析室に属して食品の機能性成分や生理活性について研究をしていました。研究と授業を通して、ガーデンハックルベリーに含まれるアントシアニンという成分に強く興味を惹かれ、大学院で更に研究を深めたいと感じるようになりました。アントシアニンには肥満や糖尿病など、生活習慣病を予防する成分が含まれています。大学院に入学後はアントシアニンと肥満予防の関わりに主軸をおいて、研究に取り組む予定です。学部時代の研究を引き続き行うので、今まで培ってきた基礎的な知識を活かすのはもちろんのこと、動物実験なども行うようになるため、今まで以上に責任感を持って取り組みたいです。

当研究科には理系だけでなく、文系の院生もいます。異なる視点から研究分野について議論できる機会が増えるので、この研究科で学ぶことに意義を感じています。また私自身、学部生時代は同じ研究室に属していた先輩の院生達にはお世話になりました。疑問に思っていることに対する確にアドバイスをくれる先輩方だったので、私も先輩達の頼りになるような院生になりたいですね。

就職が大学院への進学か、迷っている人もいるかもしれませんが、学部での研究に楽しさややりがいを感じている人は、大学院の学びに向いていると思います。研究に対する熱意や研究職に対する思いがあるなら、ぜひ挑戦してみてください。私も大学院卒業後は食品分析の知識を活かして、食品に関する研究職に就くことを目指しています。当研究科での学びはきっと地域に貢献できるものだと思っています。





地域リノベーション専攻  
コミュニティデザイン研究領域  
1年

かん きんきょう  
**甘 金 嬌** さん  
中国浙江師範大学 出身

### 産学官の連携で地域貢献 充実したサポート体制も魅力

産学官連携での地域研究を続けるために、フィールド調査に力を入れている弘前大学に進学を決めました。大学時代に行ったコミュニティづくりに関する研究を、当研究科の産学官連携の取り組みで一步進んで深め、地域課題の解決に自分の力を注ぎたいと考えています。入学してから、町並み保存などの調査に参加し、貴重な経験をたくさん積み、とても充実した研究生生活を送っています。

現在、弘前市にある空き家率が10%以上かつ単身高齢者の数が多い町を研究対象として、住民の除雪活動を研究しています。研究対象地域の住民は積雪によって外出が困難という課題だけではなく、雪が積もったままの空き家の破損という雪害の危険性にも直面しています。住民の要請で道路除排雪が行われる場合もありますが、空き家への雪対策はまだ不十分です。個人的には排除雪体制というソフト面だけでの対処は難しく、流雪溝の整備などハード面においての支援が鍵になると考えています。私は温暖な地域の出身で、弘前で初めて雪のある生活をしています。雪に不慣れな私はもちろん、雪国に長く住む方々でさえ雪に悩まされるのですから、自分の研究が地域の除雪活動の役に立つなら、非常に嬉しいです。

研究だけではなく、生活面でも弘前大学から多くのサポートを受けています。コロナ禍においてアルバイトの出勤が減り、収入や日本語でコミュニケーションを取る機会が減りました。困っていたところ、先生の勧めでTAとして授業の補助をする学内アルバイトをさせてもらいました。また、奨学金についても何かと教えてくださり、コロナ禍の不安な状況でのサポートにとても助けられました。

将来、日本で活躍できるグローバルな人材になれるよう、日々努力しています。



地域リノベーション専攻  
レジリエンステクノロジー研究領域  
1年

か と あやか  
**加 登 綺 夏** さん  
青森県立田名部高等学校 出身  
弘前大学 出身

### 地域に寄り添った防災で 災害から命を守りたい

小学校の頃に経験した東日本大震災がきっかけで、防災で命を守りたいと思うようになり、弘前大学の理工学部地球環境防災学科へ進みました。学部生時代から取り組んでいる研究が、災害遺構についてです。災害遺構とは過去にあった災害の教訓として残された建造物や記録のことで、例えば津波到達点に建てられた石碑等が災害遺構にあたります。東日本大震災の時も過去の教訓に従ったことで助かった人もいますが、多くの人は災害遺構の存在自体を知らずに被害を受けました。私は災害遺構を認知してもらうことで防災意識を向上させたいと考え、災害遺構を活用した防災教育カリキュラムを作成しています。当研究科では「文理共創」という理念のもと、文系と理系それぞれの知識を持った学生が、同じ研究科で学んでいます。学部生時代は理系に特化した学びが中心でしたが、今では様々な分野の人たちとの意見交換を通して、自分自身の防災への向き合い方も多角的になったように思います。

私はアルバイトをしながら一人暮らしをしており、コロナ禍において出勤日数が減るなど環境が変わりました。しかし本大学の学生支援は充実していて、100円夕食や食支援プロジェクト、大学発地域振興券など様々な支援をしてくれました。学生に寄り添ったサポート体制のおかげで、コロナウィルスの流行前とさほど変わる事無く、学生生活を送ることができています。

また、大学院に進んでからは将来の夢も変化しました。元々は公務員を目指し公務員講座も受講していましたが、研究を通して関わった方々が防災や災害遺構について興味を持ってくれることに嬉しさとやりがいを感じています。卒業後は民間企業に勤め、地域住民の方々と近い場所で、防災に関する事業や意識の向上を一緒に作り上げていく仕事をしたいです。



産業創成科学専攻  
食産業イノベーション研究領域  
1年

こばやしけいた  
**小林 圭太** さん  
北海道北広島高等学校 出身  
弘前大学 出身

### 食品成分の性質を研究し 私達の健康づくりへ活かすために

私が大学院進学を決意したのは3年の時でした。中学時代から食品への関心が強く、進学先を選んだのが弘前大学農学生命科学部食料資源科。入学当初から大学院を意識しながら過ごしていたのですが、食品の成分に関する勉強をしているうちに、今まで以上に興味が高まってきて、学部で行っていた研究をさらに深めるために当研究科へ進むことを決意しました。

現在、行っているのはアカガイに含まれるヘム鉄に関する研究です。ヘム鉄とは畜肉や赤身の魚に含まれている成分で、ホウレンソウなどが持っている鉄分よりも、体に吸収されやすいという特性があります。保存性を高め、より多くの人に食べてもらうためには加工が必要になりますが、加工する段階で成分が変化して吸収されにくい鉄に変化してしまうと考えられています。このヘム鉄の状態を保ったまま加工する方法を探るべく、実験では加熱等の処理を加えたアカガイに、どのような変化が起きるかデータを集積しているところです。若い女性層を中心に、鉄不足による貧血を抱える人達は多いので、その改善・予防のためにアカガイが選ばれるようになればいいと思いながら研究に励んでいます。

研究内容は学部生の頃とあまり変わっていないのですが、大きく異なるのは授業の内容と質です。学部の授業では知識を身につけることが重視されますが、大学院の授業ではプレゼンテーションや教員と議論をする場面も多く、身につけた知識を応用しながら、相手に伝える能力が求められます。私自身、そういった発信や発言は得意ではなかったのですが、大学院の学びを通して成長を実感しています。将来は大学院で得た貴重な知識と経験を活かせる食品関係の企業に就職し、社会に貢献できる人材になりたいと思っています。



産業創成科学専攻  
グローバルビジネス研究領域  
1年

か さい とよき  
**葛 西 豊 喜** さん  
青森県立弘前実業高等学校 出身  
弘前大学 出身

### 仕事と学問を両立して 双方でステップアップを実現する

弘前大学にはグリーンカレッジという、社会人の学び直しを支援する制度があります。私はグリーンカレッジを通して大学での勉強に興味を持ち、社会人入試を活用して本大学へ入学しました。今も社会人生活と両立しながら当研究科で学びを続けています。

私はインターネットを活用して、パソコン関連部品や青森県産品を販売する会社を経営しています。学部生の頃から経営学について学んでいたのですが、自分が仕事の経験として覚えてきたことが、学問と共通する部分も多く、取り組んできたことは間違っていないという確信になりました。また、コロナ禍の影響で仕事においてもオンラインで話し合う機会が増えたことで、「知識移転」について考えるようになりました。動画は形として決まっている事を伝えるのに適していると考えていますが、話すときの間のとり方や聴衆をひきつける動作など、オンラインではなかなか伝えるのが難しいこともあります。言葉にしても伝わりづらいうものを、オンラインで伝えられるものか。それを研究しようかと検討しているところです。

正直、大学院での授業に難しさを感じることもあります。別々の人の異なる主張を自分の中で理解して、学術的な結論を出すという、能力と知識が求められます。大変ではありますが、間違いなく自分の血と肉になっただけで、大人になってもそういった経験ができるのは幸せなことだと思います。文章の読み解き能力が決定的に変わったことは実感できているし、仕事にも十分に活用できています。学びに若いもそうでないもなく、これでいいという事もないという事を大学院に進学して痛感しました。仕事と学問の両立に不安を感じる方もいると思いますが、私個人としては全く問題を感じていません。大切なのは柔軟な発想を人に求めるのではなく、自分から新たな世界に飛び込むこと。弘前大学にはそれを受け入れてくれる懐とサポート体制があります。



RESEARCH HIGHLIGHTS ①

人間と自然の関係性から新たな創造を



近藤 史

コミュニティデザイン領域

(E-mail) fumi.k@hirosaki-u.ac.jp  
 (Website) <https://researchmap.jp/fumilia/>

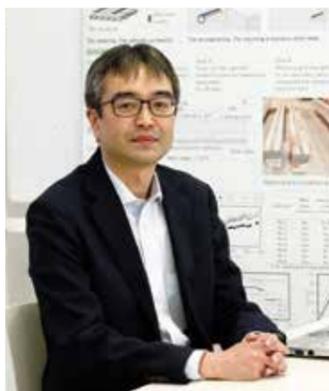
私たちの生活様式や活動範囲の変化は、人と自然の関係性にも変化をもたらします。ときにそれは、森林の劣化や工芸品の原料不足といった問題として顕在化します。そうした課題を克服するには、地域の社会と環境が相互に影響していくプロセスを丹念に追い、人びとの工夫のなかから応用可能な潜在力を見いだすことが重要です。

私は、森林劣化の著しいタンザニアで、地元の人々が生長の早い外来樹を植えて、林業と焼畑を複合し新たな生業システムを創出した事例に着目してきました。草の根のイノベーションの過程を分野横断的に検証し、野火被害の抑制や地域経済の向上を可能にした彼らの協働の仕組みと在来知を明らかにしました。この成果を他地域の環境保全に応用する実践的研究にも取り組んでいます。日本では、漆の地場生産再興に挑む津軽塗職人らに注目しています。このほか、分かりやすい言葉と写真や、フィールドで収集した資料を用いて、社会科学の成果を広く地域社会にフィードバックする活動もすすめています。



RESEARCH HIGHLIGHTS ②

コンクリートの技術を環境問題に活かす



上原子 晶久

レジリエンステクノロジー領域

(E-mail) kami@hirosaki-u.ac.jp  
 (Website) <https://researchmap.jp/read0074796>

私が現在行っている研究は、大きく分けて2つあります。一つ目は、鉄筋コンクリート構造物の合理的な補修・補強を行う研究です。日本では高度経済成長期以降に大量のコンクリート構造物が建造されました。その結果、目覚ましい経済成長を成し遂げました。一方でこれらの構造物は老朽化しており、補修や補強などの維持管理が必要になっています。このような補修や補強の建設現場では省力化が求められており、そのような社会的要請に答えるような研究を日々進めています。

二つ目は、産業廃棄物由来の材料をコンクリートに混入させることによるリサイクル化の研究です。日本における産業廃棄物は、年々増加の一途を辿っています。それに伴って、廃棄物の処分地が少なくなっているなどの課題もあります。この研究ではコンクリートに使用する砂の一部を、産業廃棄物由来の材料に置き換えることに挑戦しています。現在、二つの研究は途上ではありますが、社会での実用化を目指して研究を続けています。



RESEARCH HIGHLIGHTS ③

遺伝子レベルからがんのメカニズムを解き明かす



西塚 誠

食産業イノベーション領域

(E-mail) nishizuka@hirosaki-u.ac.jp  
 (Website) <http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/staff/makoto-nishizuka>

がんは日本人の死亡原因の第1位であり、年間100万人近くが新たにがんと診断されると推定されます。早期診断や治療法の進歩により、がんが原発巣に限局する時の治療率は高くなってきましたが、がん細胞の他臓器への転移は完治への大きな妨げとなります。そのため、がん制圧のためにはがん細胞の転移を如何に抑制するかが非常に重要な喫緊の課題です。

当研究室では、がん細胞の転移に必要なプロセスと考えられる、上皮間葉転換 (Epithelial Mesenchymal Transition, EMT) という細胞形態変化に着目し、遺伝子レベルからその制御メカニズムの解明をめざしています。

がんの転移制御に関わる分子メカニズムについて新しい知見を世界に向けて発信することにより、健康や医療の面において地域に貢献していきたいと考えています。興味のある方はご連絡いただけると幸いです。



コントロール細胞 遺伝子X導入細胞  
 図 遺伝子Xによるがん細胞の転移抑制  
 高い細胞は特に転移したがん細胞です。  
 遺伝子Xを導入したがん細胞では転移が抑制されていることがわかります。

RESEARCH HIGHLIGHTS ④

ビジネスの手法を通じた社会的課題の解決に関する研究



大倉 邦夫

グローバルビジネス領域

(E-mail) k\_ohkura@hirosaki-u.ac.jp

近年、地球環境問題、貧困問題、途上国支援の問題、地域活性化の問題など、多岐にわたる社会的課題が存在しています。そうした中、企業やNPOがビジネスの手法を用いて、様々な社会的課題の解決に取り組む「ソーシャル・ビジネス」という事業スタイルに注目が集まっています。

例えば、われわれが普段身につけている衣料品も単に廃棄物にするのではなく、再度資源化し、他の製品に活用していく「リサイクル・ビジネス」も見られるようになってきました。特に、ソーシャル・ビジネスを進めていく際には、ある特定の事業者が単独で取り組むのではなく、他の個人や組織と協働して取り組むことの有効性も、最近の研究で指摘されています。

私は、ソーシャル・ビジネスの成否に影響を与える要因や、複数の個人・組織が協働してソーシャル・ビジネスを進めるためにはどうしたら良いのか、ということについて研究を進めています。

